

アフリカ豚熱（A S F）防疫演習の概要

1 実施時期

令和 2 年 9 月 8 日（火）

2 参加者

農林水産省消費・安全局、生産局、農村振興局、動物検疫所、九州農政局消費・安全部（協力）国立研究開発法人 農研機構動物衛生研究部門、熊本県

3 目的

アジアにおいて感染が拡大しているアフリカ豚熱（A S F）について、「アフリカ豚熱に関する特定家畜伝染病防疫指針（令和 2 年 7 月改正）」に基づき行われる県からの緊急通報、防疫措置開始等の初動対応を確認するため、特に関係者間の連絡・連携体制の確認に重点を置いた防疫演習を実施する。

4 実施方法

熊本県で A S F が発生したことを想定し、同県からの緊急通報を受けて訓練を開始。迅速な農場情報等の収集、省内関係部局との連携、予防的殺処分を含む防疫措置計画の決定や防疫資材の提供、防疫作業動員者の派遣等について調整を行い、迅速に防疫措置が開始できるか否かの点検・確認を行う。

5 結果の検証

（1）関係資料の作成

資料作成に当たっては、迅速な現地からの情報収集が重要。特に、対外発信のための資料については、わかりやすい資料を作成すべく、情報を正確に整理する必要がある。

（2）人員派遣及び防疫資材の提供に係る調整

熊本県の要請を受け、動物検疫所、農政局、家畜改良センターの獣医師・技術者等の派遣や、防疫資材の提供が可能な連絡体制・防疫体制が整っていることを確認した。

（3）予防的殺処分に係る検討

本演習では、発生農場から半径 500m 以内の区域を予防的殺処分の指定地域とすることを想定した。予防的殺処分の要否、基準、範囲等について、ウイルスの農場侵入時期、野生イノシシにおける浸潤状況及び周辺農場の状況等に応じた迅速かつ適切な判断を行うためには、多様な状況を想定した準備を行う必要がある。

6 総括

本演習は、農研機構動物衛生研究部門及び熊本県に御協力いただくことで、緊張感のあるものとなった。感染力の強いASFの防疫対応としては、初動が極めて重要である。適切な初動対応を行うためには、迅速な防疫措置計画の作成が必要であり、常日頃からの都道府県との防疫体制の相互確認及び密接な連携体制の構築の重要性を再認識した。

今後、各都道府県の防疫演習結果等を踏まえて、課題を整理し、防疫体制の充実を図ってまいりたい。

